

琉球列島・小笠原諸島のサンゴ分布図

サンゴ分布図とは

琉球列島、小笠原諸島のサンゴの分布状況を示した図です。生きているサンゴの被度や海域別のサンゴの概況について掲載しています。

※サンゴ被度

サンゴ被度とは、サンゴが着生可能な海底面(泥地や砂地などを除く)に占める生きたサンゴの割合(被覆率:%)のことです。
 生きたサンゴの合計面積が海底面の1割を占めれば被度は10%、半分なら50%となります。本分布図では、被度5%未満、5-50%未満、50-100%の3区分で表現しています。
 なお、本分布図ではサンゴの分布及び被度については、礁嶺より陸側の礁池内のサンゴについて表記しています。

サンゴの特徴

●サンゴとは

サンゴはクラゲやイソギンチャクなどを含む刺胞動物門に分類され、ポリプと呼ばれる小個体から形成されています。サンゴは、体内に褐虫藻と呼ばれる藻類を共生させ、褐虫藻の光合成で作られたエネルギーを得て生育しています。

サンゴは、小型の生物達のすみ家や隠れ家、また、サンゴが分泌する粘液による栄養分の提供などの他、消波機能や二酸化炭素吸収にも貢献していることから「海の森」と呼ばれ、海域の生態系の中で重要な役割を果たしています。

サンゴは、海域の生態系において重要な役割を果たしていますが、近年の海洋環境の変化によりサンゴ礁の生態系機能が衰退しつつあり、サンゴの保全を求める声が高まっています。

●サンゴ礁とは

サンゴの中で、光合成で作られたエネルギーなどを利用して、海水中のカルシウムを結晶化させ、石灰質の骨格を形成するグループを造礁サンゴと呼びます。多数のサンゴが形成した骨格が長い年月をかけて積み重なって、海面近くまで高まりを作る地形をサンゴ礁と呼びます。

琉球列島のサンゴ

●特徴

日本の西南端に位置する琉球列島には長大にサンゴが分布しています。特に石垣島と西表島の間広がる石西礁湖は日本最大のサンゴ礁があり、北側を流れる黒潮の影響を受け、世界で三番目のサンゴの種数を誇る多様性の豊かな場所です。さらに、黒潮に乗って沖縄島などより高緯度な海域へのサンゴの幼生等の供給源となっている可能性があると考えられています。

琉球列島の中ほどに位置する奄美群島でも多くのサンゴ礁が見られますが、北部に位置する屋久島・種子島では、急深な地形も影響し、顕著なサンゴ礁は発達していません。

小笠原諸島のサンゴ

●特徴

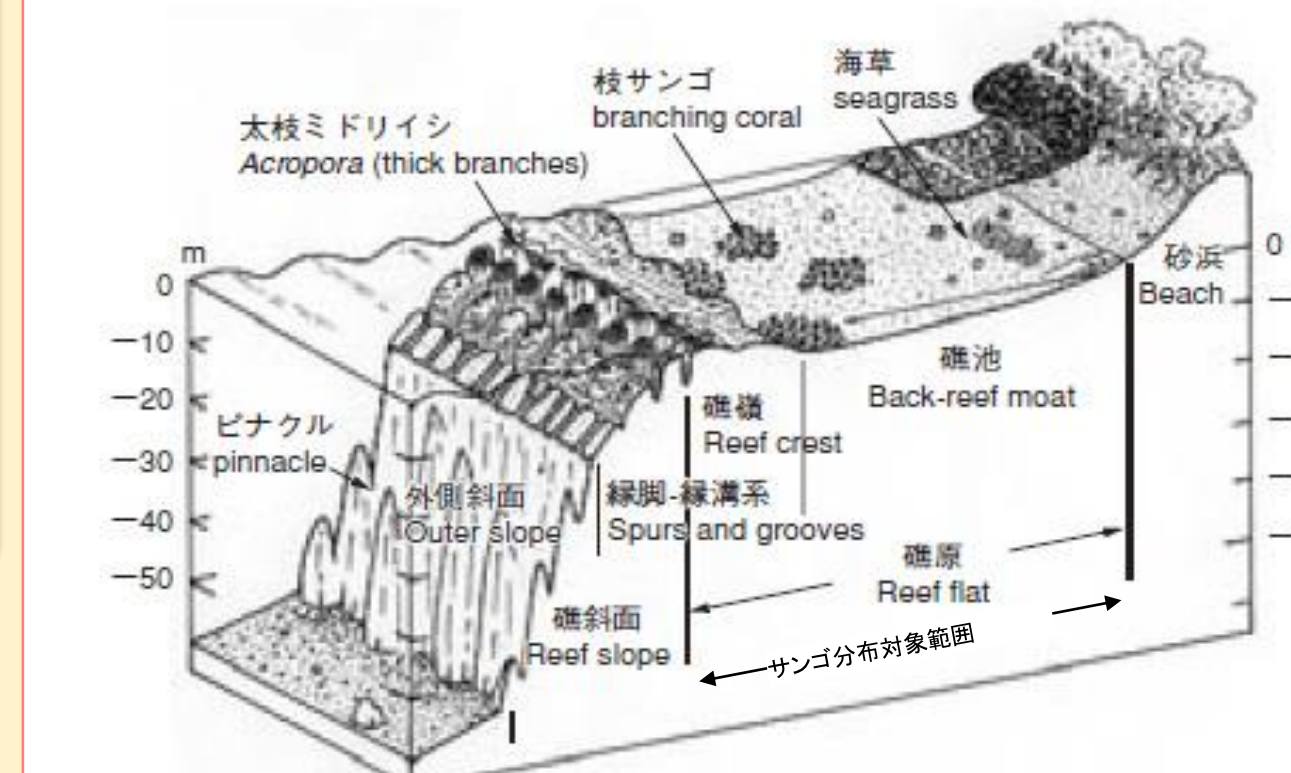
成立してから一度も大陸と地続きになったことのない海洋島であり、黒潮などの海流の影響も受けにくい場所に位置することから、サンゴの幼生が到達しにくい独特の条件下にあります。このため、沖縄本島と同緯度でありながらサンゴの種数は多くありませんが、強い波浪から守られる内湾に着生した幼生が成長して群集を形成し、場所によっては特徴的なサンゴ群集が見られます。
 兄島瀬戸(父島と兄島の間)には多様なサンゴ群集、父島の二見湾にはサンゴの大群集が見られます。

サンゴの緯度勾配について

わが国の海域におけるサンゴは、世界的にみると分布北限域に位置し、琉球列島の南西に位置する八重山諸島ではサンゴが広い範囲に分布していますが、緯度が高くなるにつれてサンゴの分布範囲は狭まり、陸域に近い範囲に限られる傾向があります。また、緯度が高くなるにつれてサンゴ礁の発達が見られなくなり、サンゴ礁として分布する地域と、サンゴだけが分布する地域が連続的に分布しています。

このように、わが国の海域におけるサンゴは、緯度に応じて生育形態を変えながら連続的に分布しています。

サンゴ礁の成り立ち

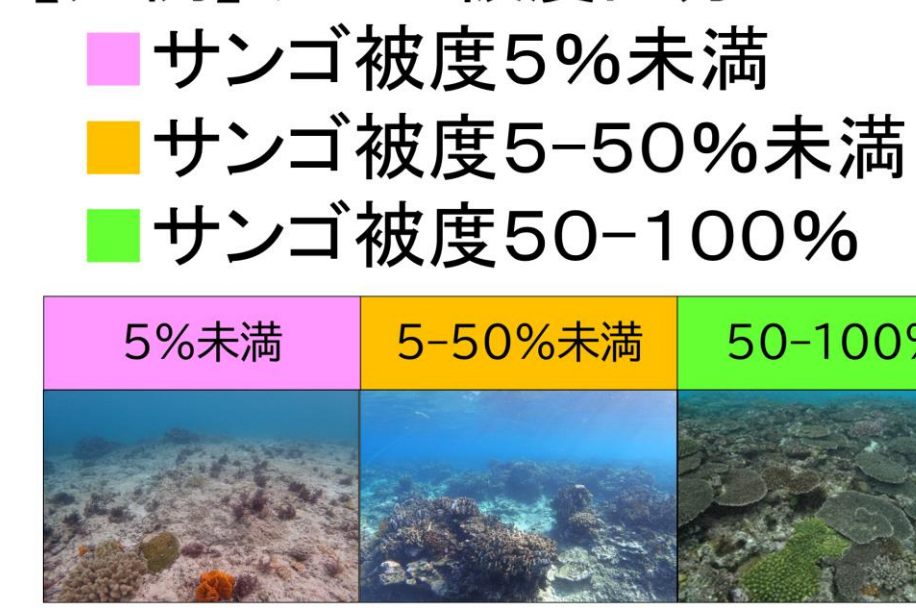


出典: Constitution of coral reef zonation. Reef crest and moat at Shiraho, Ishigaki Island.

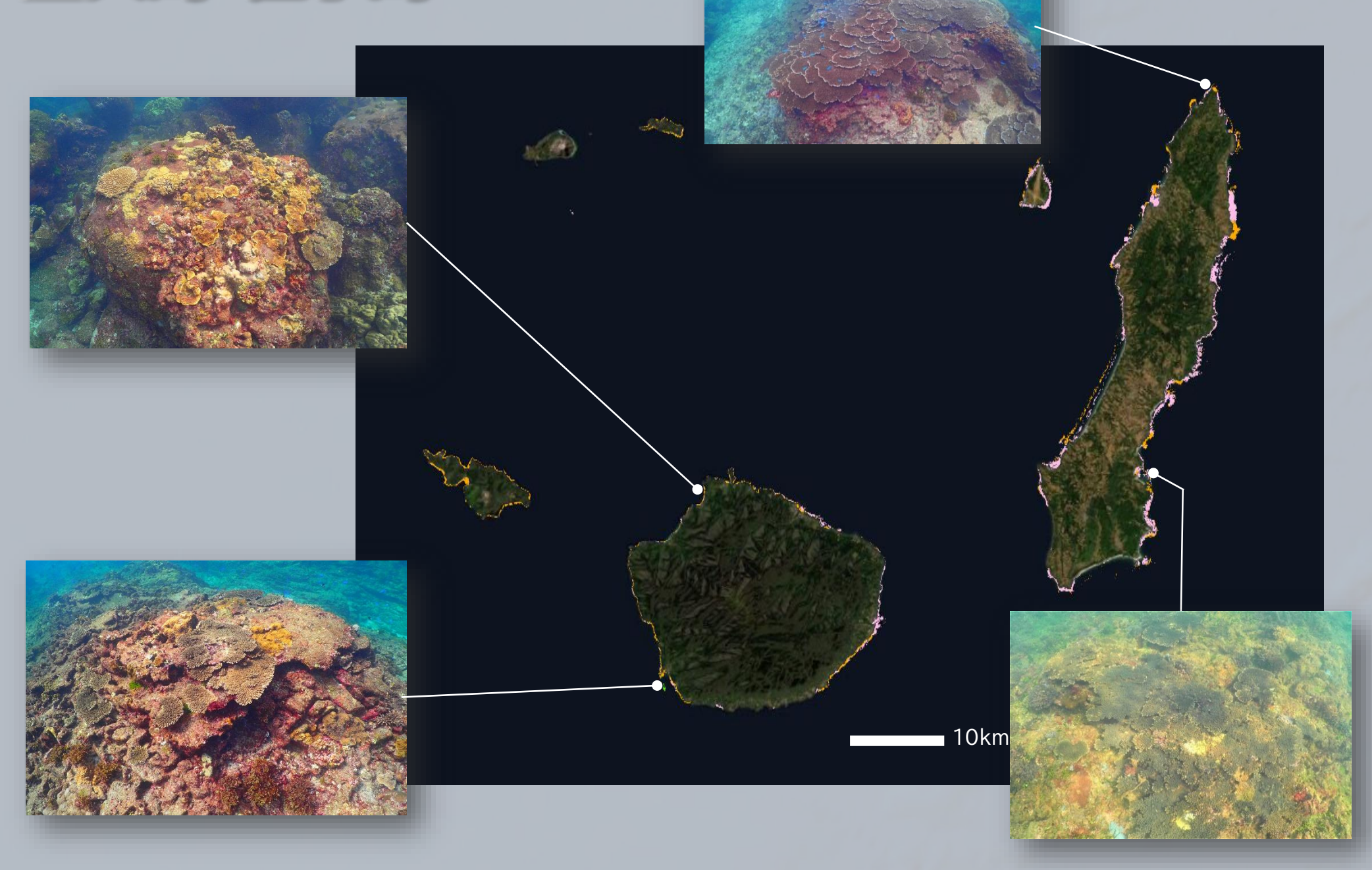
分布図に関する留意事項

本サンゴ分布図は、衛星画像(2016年夏季以降撮影)を主として、各海域の代表的な場所について実施した現地調査(2017~2021年度)のデータを用いて補完し、作成しています。そのため、最新の状況とは異なる場合があります。

【凡例】サンゴ被度区分



屋久島・種子島



= 琉球列島 =

北緯31度

位置図

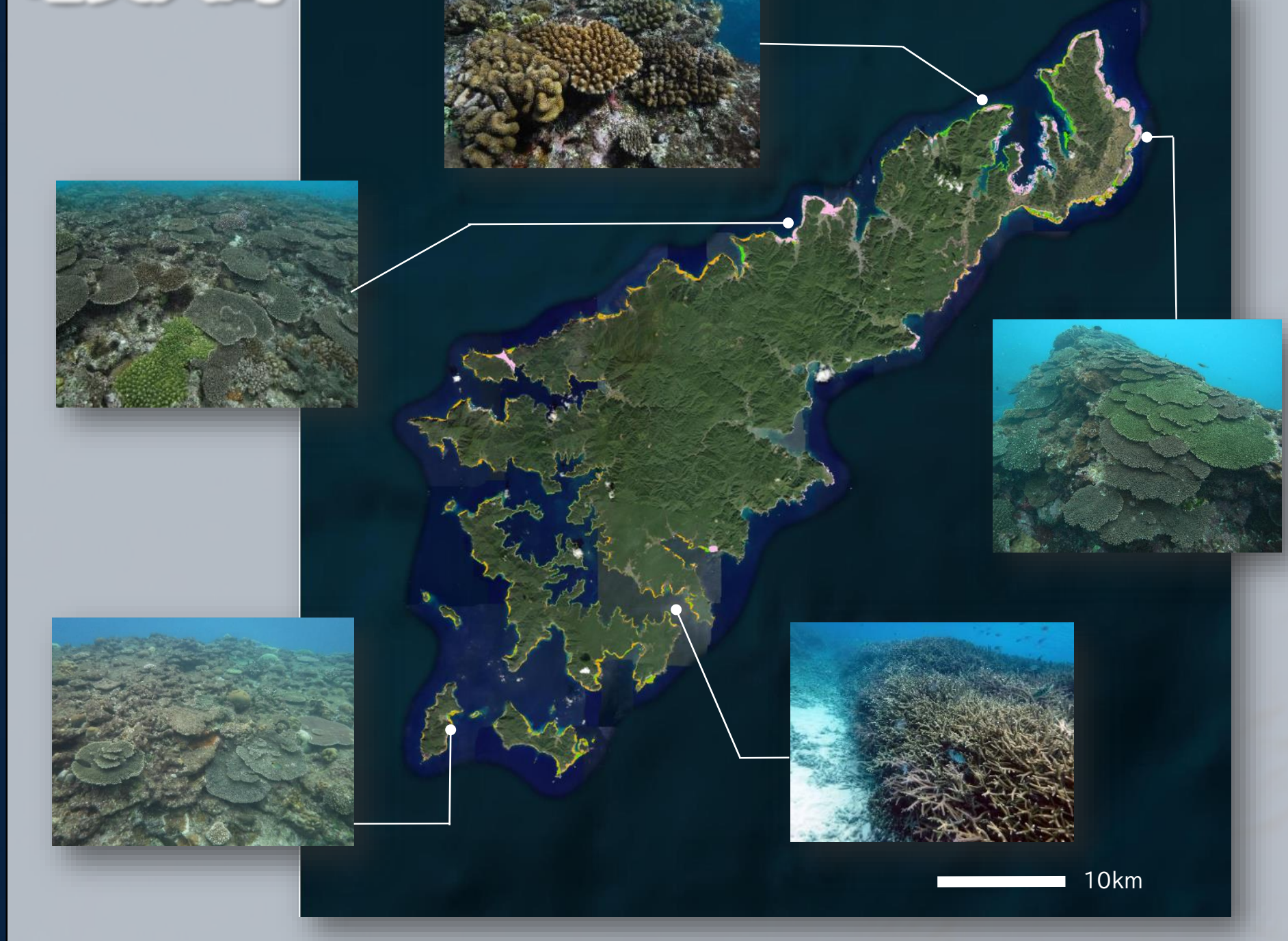


= 小笠原諸島 =

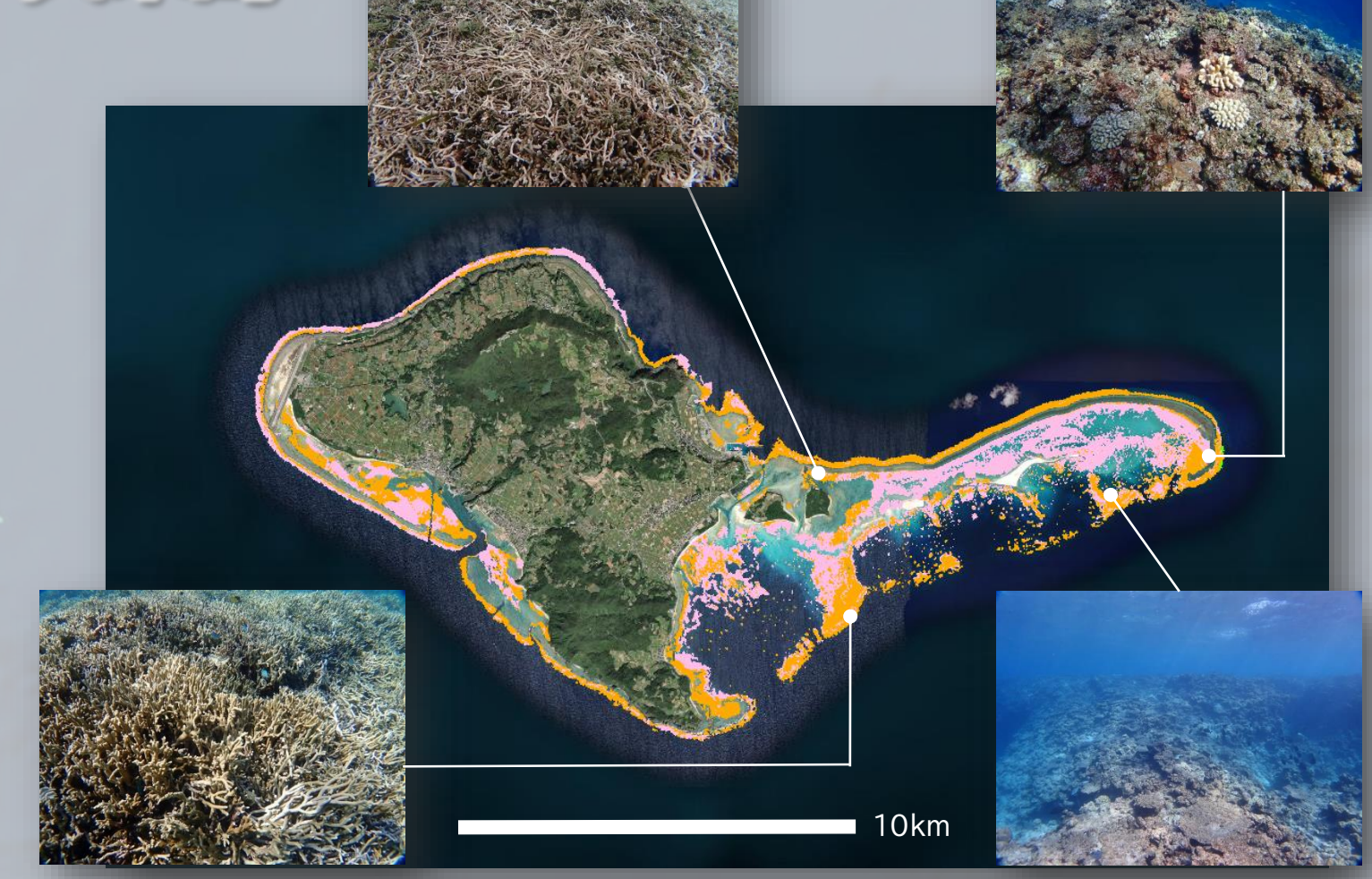
北緯27度

北緯27度

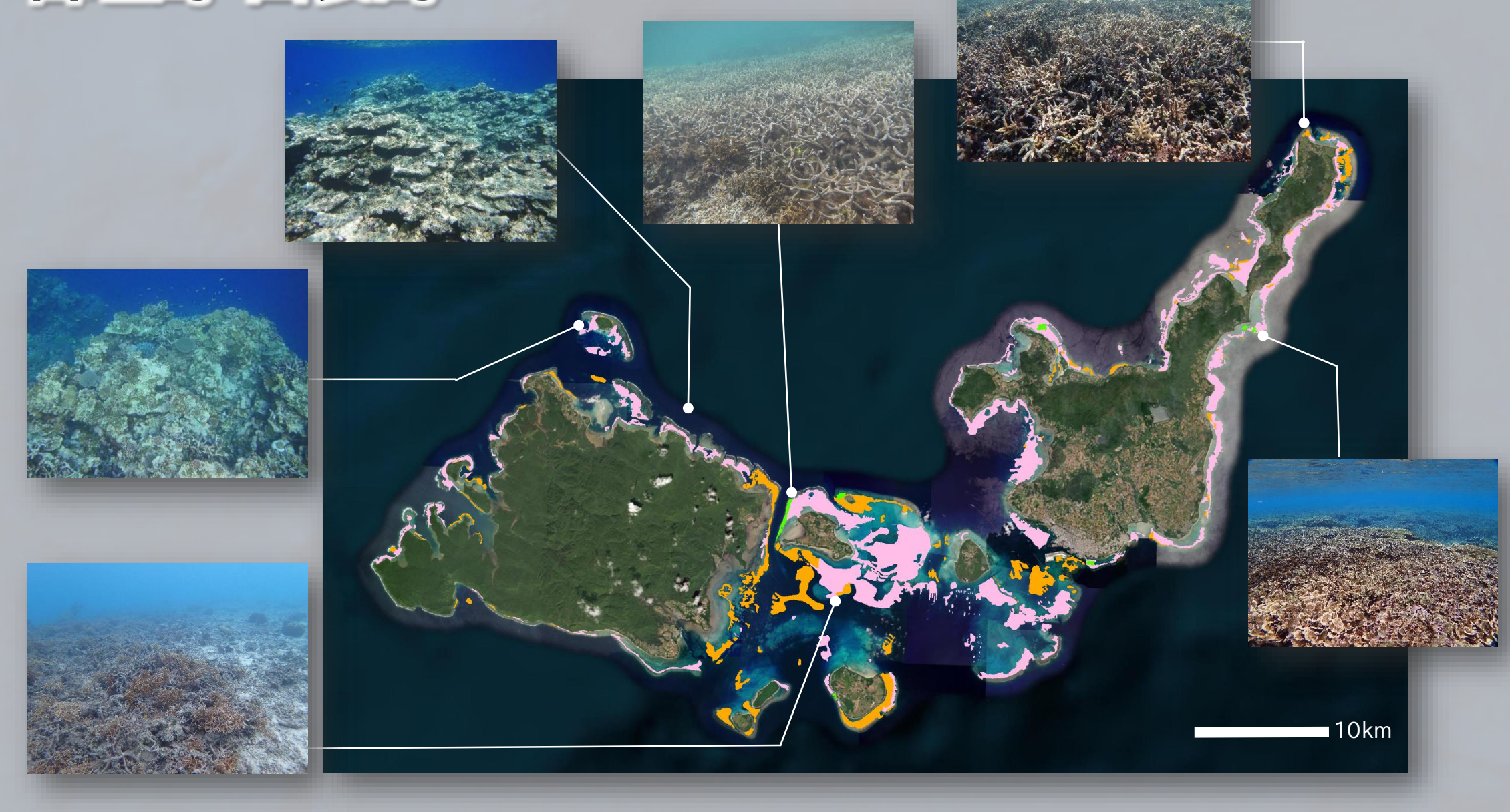
奄美大島



久米島



石垣島・西表島



父島列島

